

# 横浜・こま世界大会

# 貧困下の若者に夢を

来年2月、横浜で開催される「全日本製造業コマ大戦世界大会」に、南米・ボリビアの若者を招待しようとする関係者らが奔走している。同国の大会で優勝した若者は、貧困のために訪日を断念。こまだけが出場予定だったが、関係者たちが渡航費の募金活動を始めた。「ものづくりの現場に触れることで、意識が変わるはず。人生さえも変わるかも」。ボリビア・コマ基金と名付けた活動には、そんな思いが込められている。

(岡本 晶子)

## 「ものづくりに触れて」

大会では町工場の職人らが、直径2センチ以下の自作のこまで競い合う。相手のこまを土俵の外に出すか、相手より長く回っていた方が勝ち。横浜での世界大会が決まり、最初にエントリーした国がボリビアだったという。

同国では、国際協力機構(JICA)シニアボランティアとして職業訓練校で製造技術を指導していた平野正さんの呼び掛けで、昨年初めてコマ大戦が実現した。貧しく、教育制度も十分に整備されていない中、若者の意欲を高める

募金活動を発案したのは、

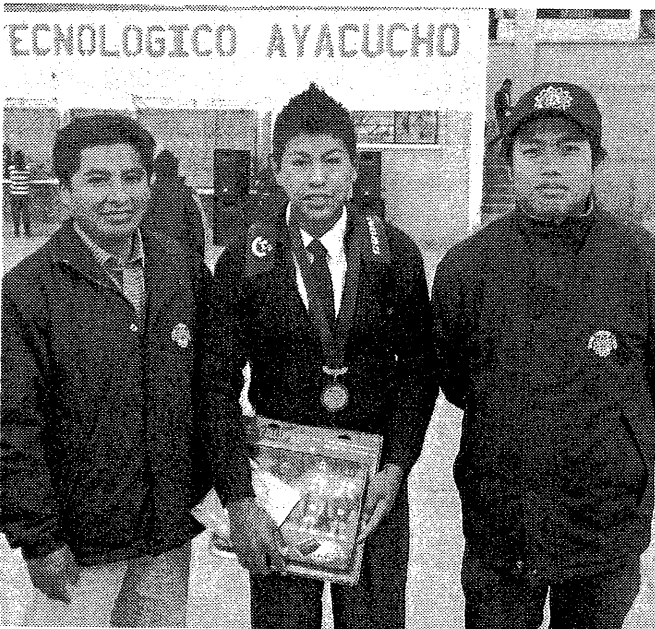
## ボリビア代表来日へ募金活動

緑川さんを通じてこの話を知った「横浜売れるものづくり研究会」の渡邊桃伯(とうく)さん。同国の製造技術の水準は、日本より40年遅れているとされる。「日本の高い技術力に触れ、何かを感じ取ってほしい。そして、今後のものづくりに生かしてもらえたら」

同基金に関する問い合わせは、ともクリエイションズ 045(2226)3475。

の企業見学なども行う。渡邊さんは目標額90万円の半分にも達していないとした上で、「多くの人の善意で招待したい」と呼び掛けている。

24日には横浜市中区のシェアアオフィス・さくらWORKS内、「ボリビアナイト」を開催。同国の料理を用意し、写真展やトークショー、演奏会を行う。会費2500円(学生1500円)のうち500円は、同基金に寄付するという。午後7～9時。



ボリビアの今年のコマ大戦で優勝した16歳の少年(中央)